

# 第3章 資料

## 災害地域MAP

Disaster area Map

シンポジウム展示会場 現地説明ポスターより

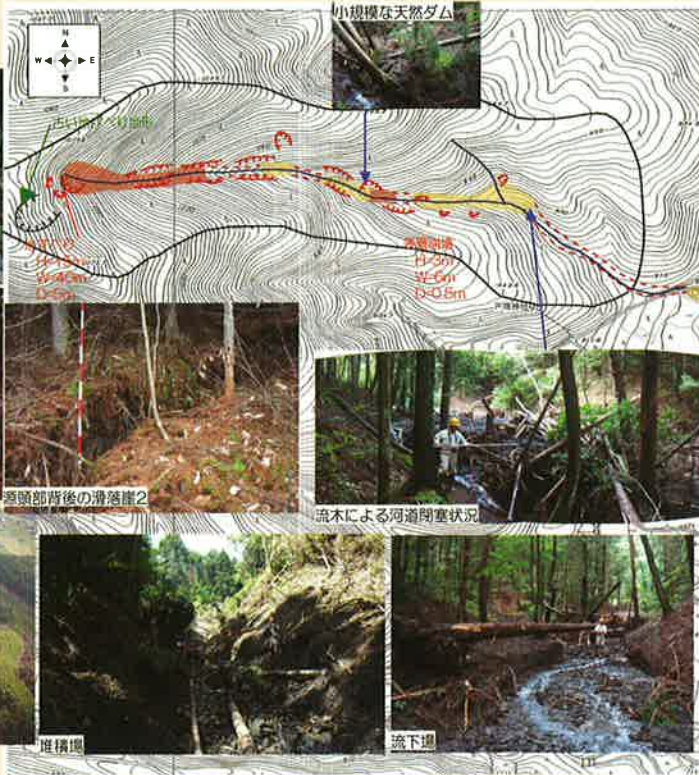
災害位置図  
地質構造図



# 災害箇所の概要

# 【砂防】たきの沢

## 【被災状況】土石流



流出土砂量	約3,000m <sup>3</sup>
不安定土砂量	2,770m <sup>3</sup>
被災状況	土石流 町道上に土砂流出 非住家1戸床上浸水
被災経緯	7/19 6:00頃 土石流発生 床上浸水1戸 下流40人ほどが自主避難

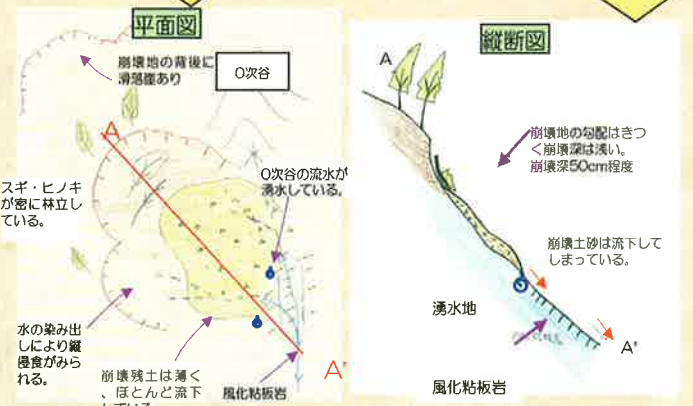
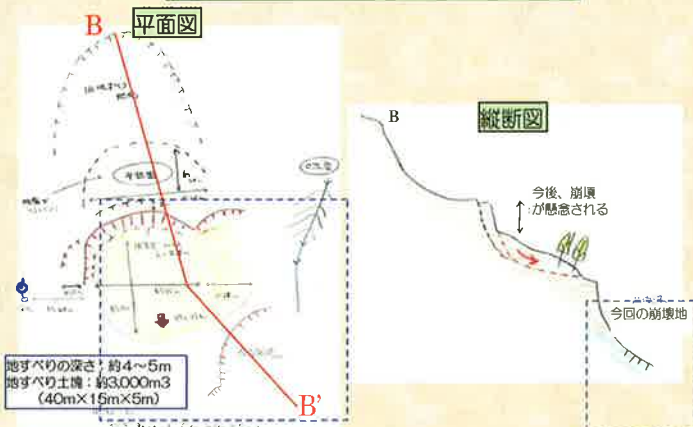


たきの沢全景(下流を望む)

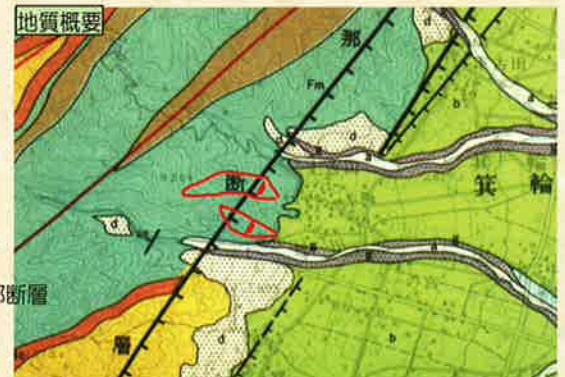
堆積地

流下地

## 崩壊発生特性



土石流の発生原因となった表層崩壊の発生は、源頭部のO次谷が崩壊したものであり、さらに谷頭方向へ谷頭侵食がのびつつある状況である。したがって、素因としては基盤である粘板岩と表土層との境界に集水しやすい環境であったことが挙げられる。崩壊地下部には基盤である粘板岩が露出しており、湧水も認められる。そのため、誘因としては、今回のかつてない大雨により表土と基盤との境界付近で間隙水圧が上昇し、斜面の安定性が損なわれ、崩壊が生じたものと推定される。



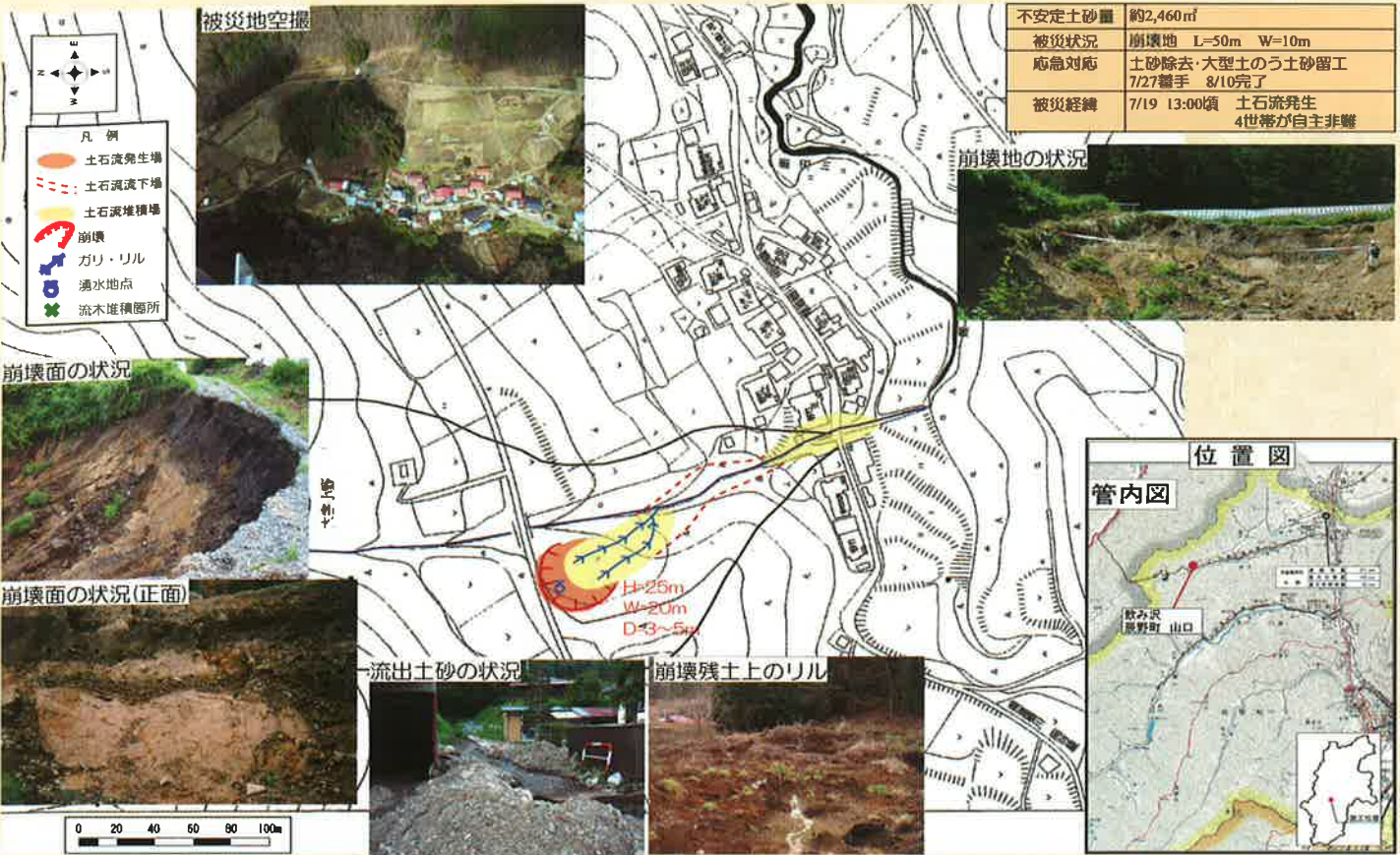
流域面積0.09km<sup>2</sup>、主流路長0.5km、平均河床勾配S=1/5の土石流危険渓流である。渓流は主流路のみで枝沢はない。流域の地質は風化粘板岩を主体としており、表層部では風化が進み細粒化している。全体的に西落ちの受盤構造となっている。ただし、上流域では走向が南落ちに変化している。山腹斜面の下位付近には崖堆積物に覆われている箇所が多い。下流部には古い段丘地形が認められる。流域の植生はスギ、ヒノキの人工林が主体である。

## 土石流のメカニズム

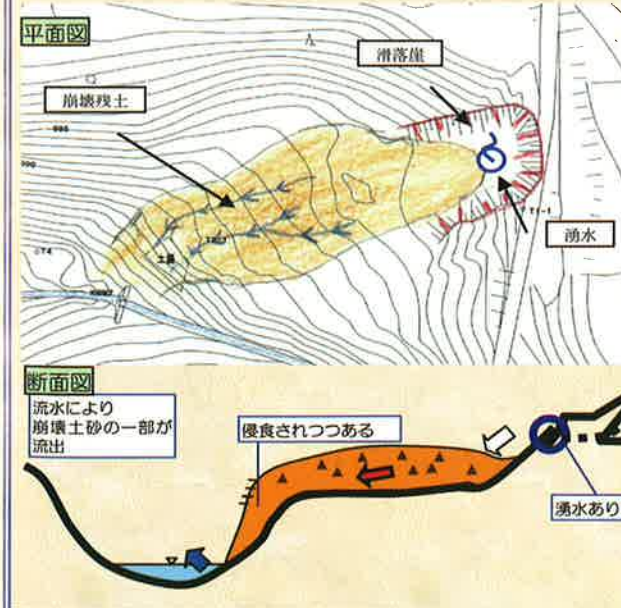


現地の状況から、土石流の発生は源頭部O次谷の崩壊を起因とし、崩壊土砂が流動化して渓岸侵食を伴いながら、流下したものと推定される。しかし、その土石流のほとんどは渓流内で河床勾配が緩くなるどころ(遷緩点)で流木の閉塞により停止しており、今なお小規模なダム状に土砂が堆積している。被害を与えた土砂流出の発生源は流木が閉塞する前に流出した土砂や下流域の渓床堆積物の二次侵食によるものである。そのため、渓流内で河道閉塞が起こらなければ、下流域の被害はさらに拡大していたと推察され、今後の出水による土砂流出が懸念される。氾濫した土石流堆積物から判断すると、泥石流~細砂礫型土石流となっている。

# 【砂防】 飲み川 辰野町 山口

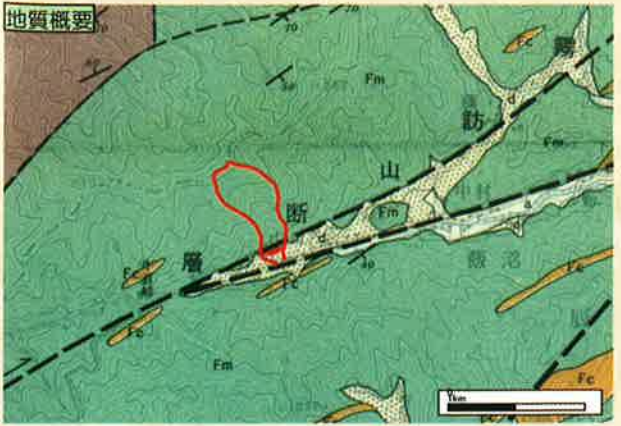


## 土石流のメカニズム

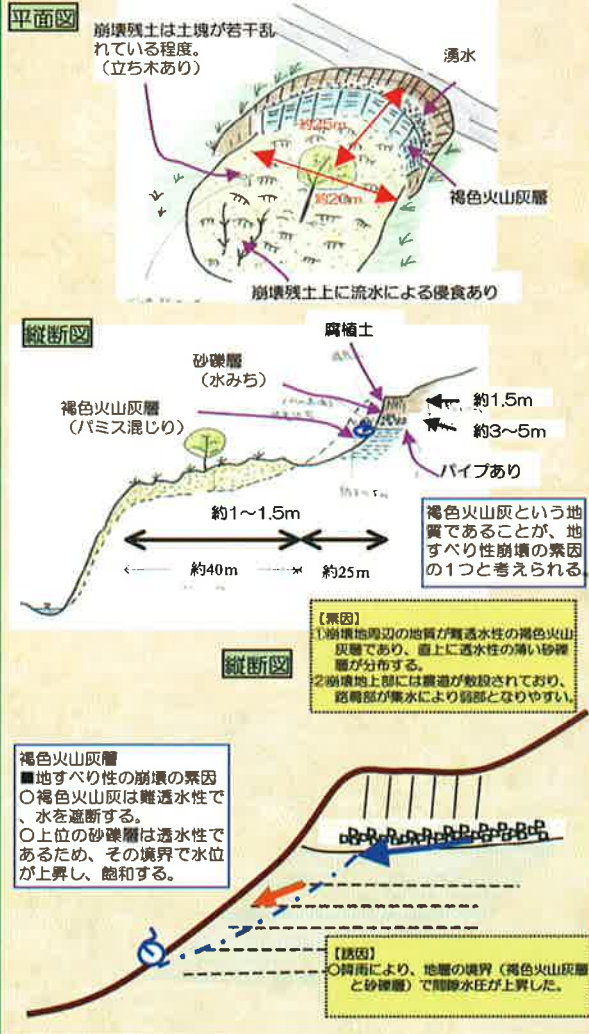


現地の状況から、土石流は中流域の地すべり性(円弧すべり)を起因とし、崩壊土砂の末端が押し出されて土石流化したものである。ただし、崩壊土砂のほとんどは残存しており、渓流に押し出している状況である。また、崩壊残土上には崩壊面からの湧水により、リルが形成されている。

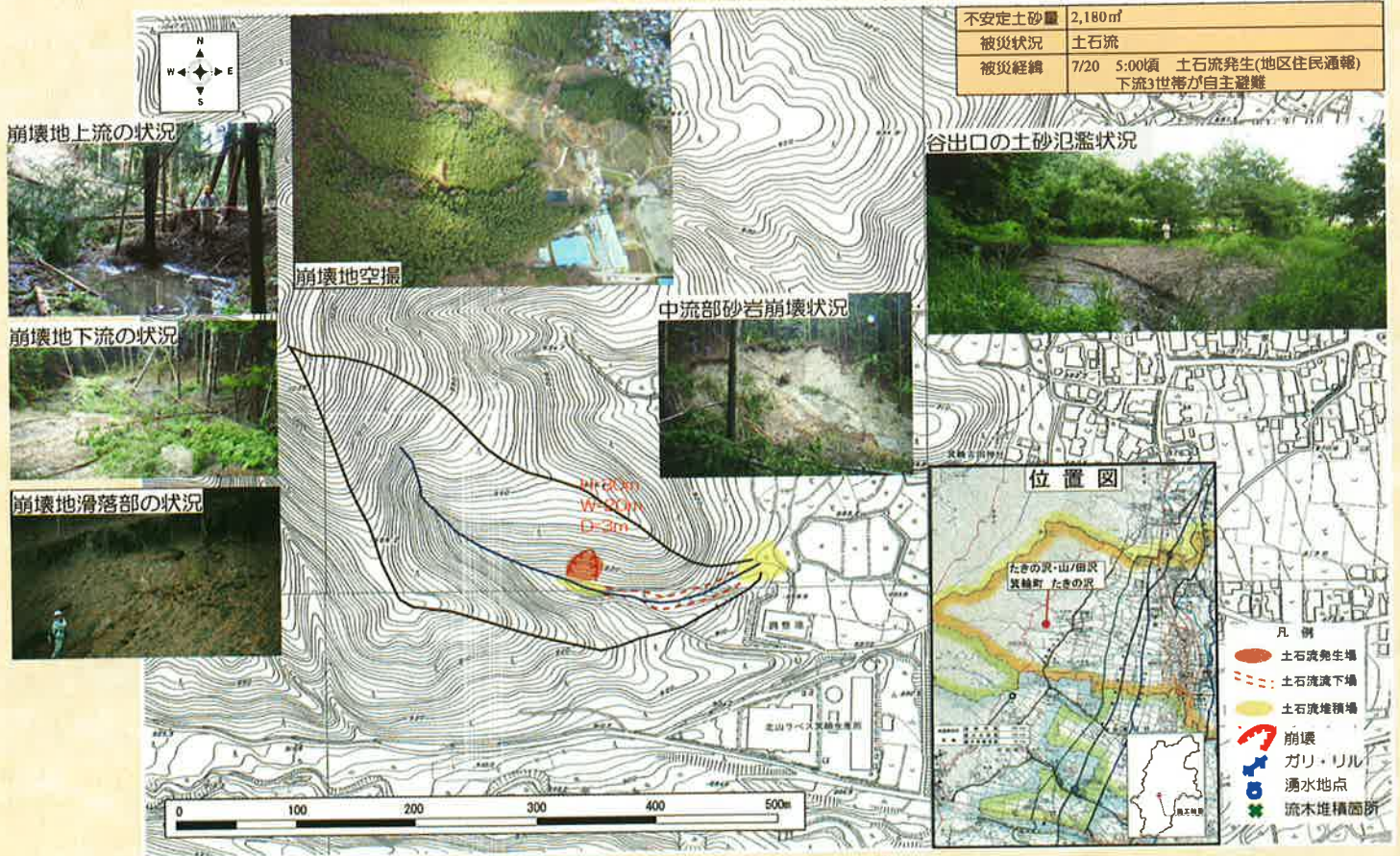
崩壊土砂の一部は本川上流からの流水により流出し、谷出口の勾配が緩くなったところで堆積した。特に道路横断面所では環流路がボックスとなっているため、閉塞し、汜濫した。下流道路上に汜濫した堆積物から判断すると砂礫を主体としている。



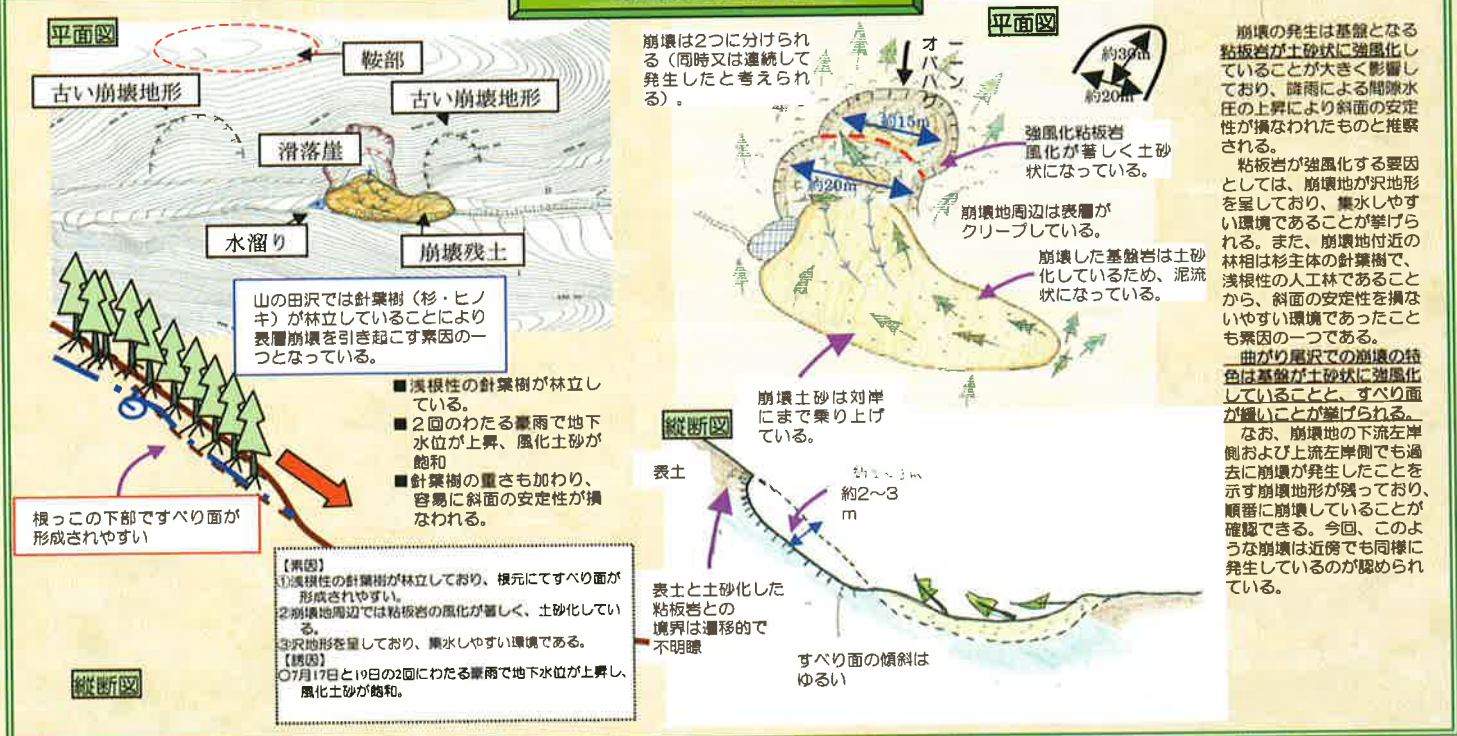
## 崩壊発生特性



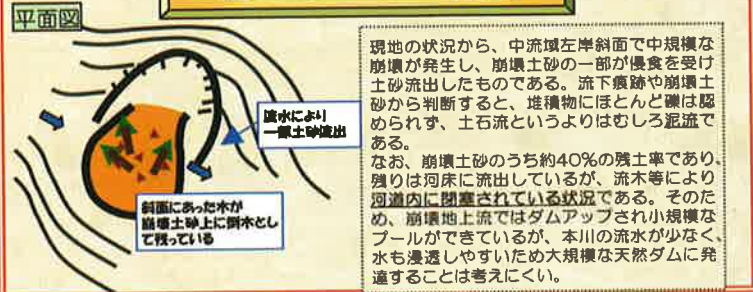
# 【砂防】 曲がり尾沢 箕輪町 曲がり尾



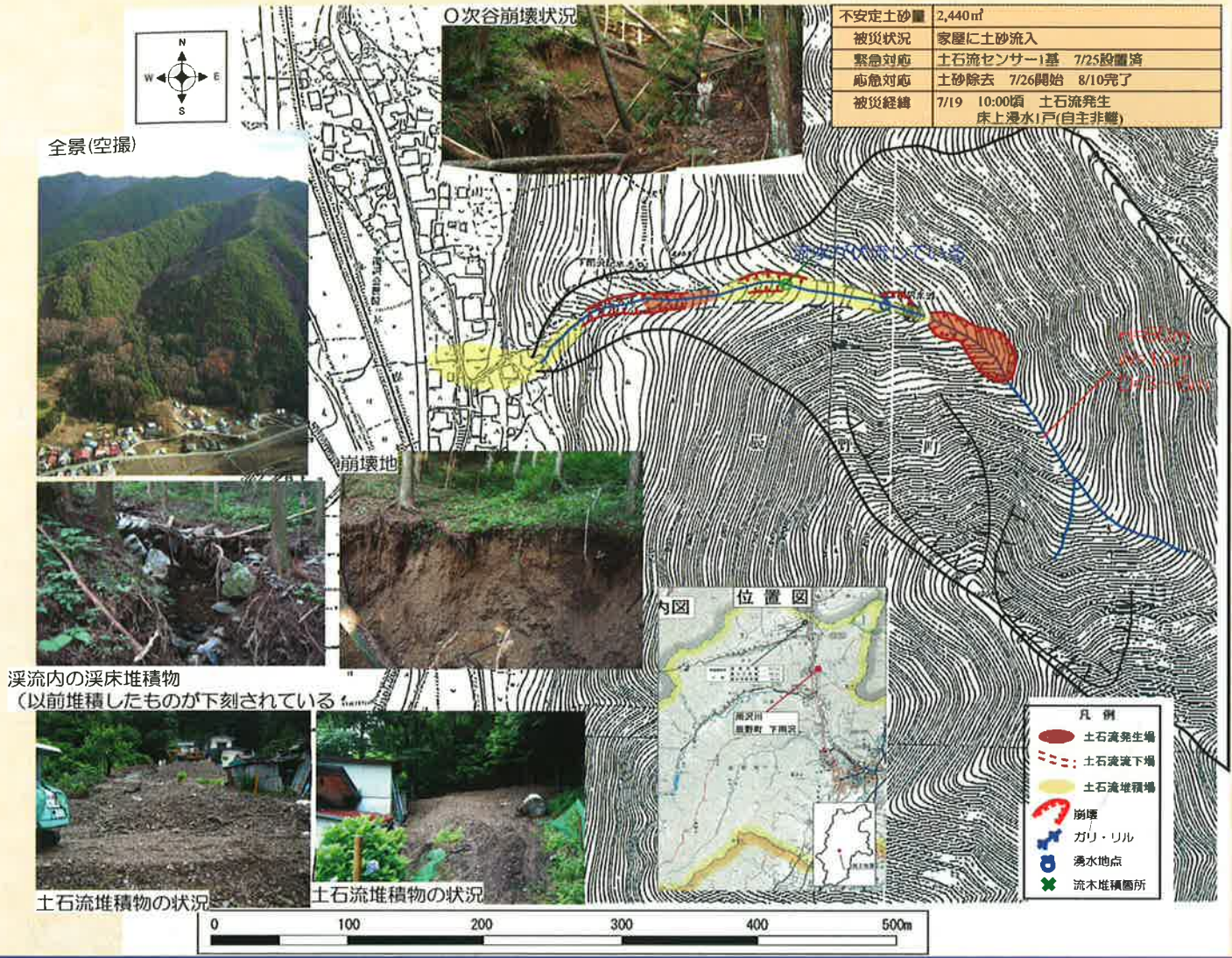
## 崩壊発生特性



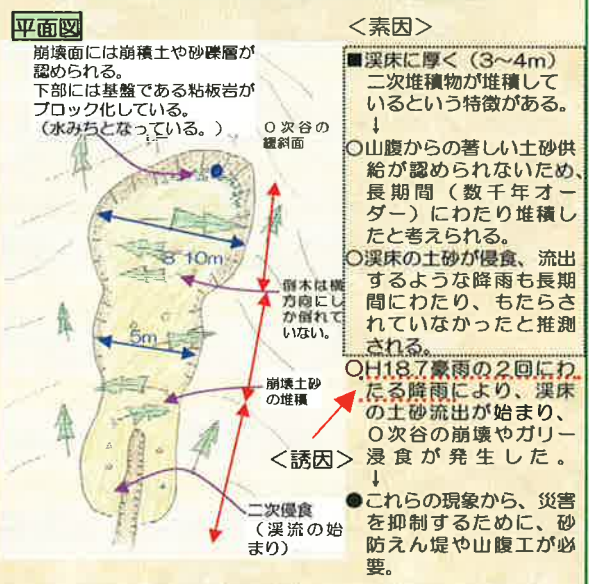
## 土石流のメカニズム



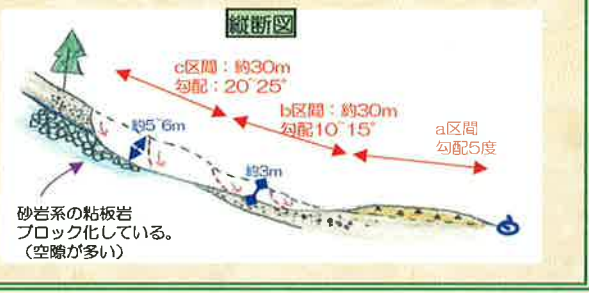
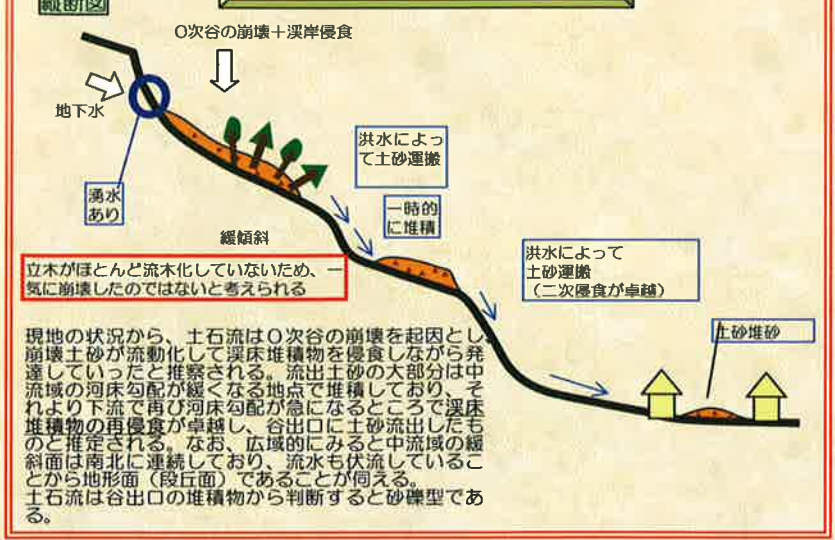
# 【砂防】雨沢川 辰野町 下雨沢



## 崩壊発生特性



## 土石流のメカニズム



# 【急傾斜】伊那市 諸町



宅面直下の状況



転石による被災



崩壊地全景(崩壊前)



崩壊地全景(崩壊後)



市道上の崩壊

被災状況	がけ地崩壊 W=10m H=10m
緊急対応	伸縮計 7/25設置済
応急対応	モルタル吹付 7/25着手 7/26完了
被災経緯	7/19 10:00頃 土石流発生 床上浸水1戸(自主非難)

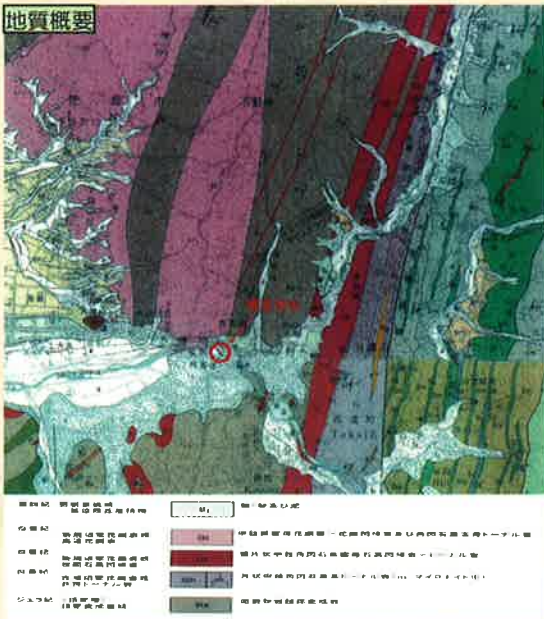


避難の亀裂

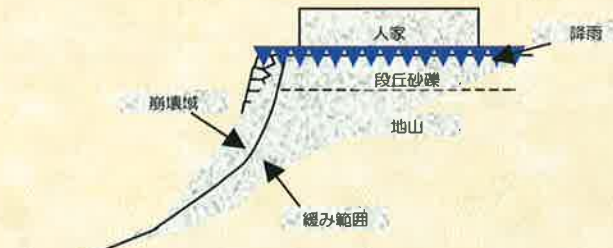


位置図

## 地質概要



## 土石流のメカニズム



平成18年7月18日に梅雨前線による豪雨(連続雨量159mm)の影響で、上伊那郡高遠町諸町の斜面が崩壊した。なお、この崩壊地周辺には、隣接して急傾斜指定区域(諸町地区)が分布している(平成5年に崖崩れの災害履歴あり)。  
この崩壊による被災規模は、斜面高H≒10m、崖幅B≒10m程度(崩壊土量50m<sup>3</sup>)である。崩壊地直上には人家(原歯科医院)が近接し、土間コンクリートの一部も土砂とともに崩落している状況である。  
崩壊地下方には、高遠町総合運動場や高遠町民体育館があり、重要な保全対象物となっている。  
崩壊直後、ビニールシートによる応急対策が施され、地表伸縮計によるモニタリング(警報機付)が行われている。

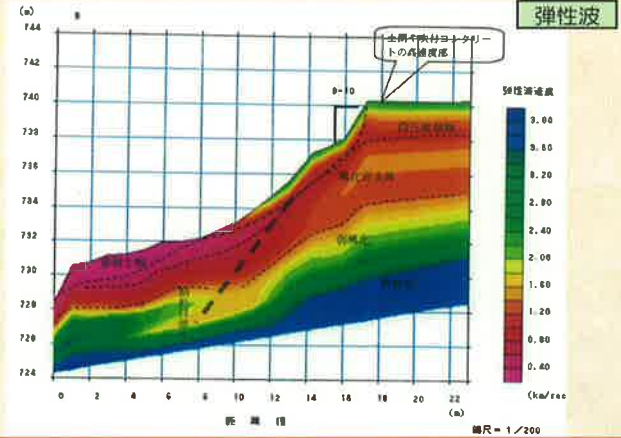
### ●地質的要因

斜面上部には、段丘砂礫層が分布しているが、崩壊直後の状況ではマトリックスの含水量が高く、泥滓化していたことから、本層が地下水の透水層となっていたと考えられる。地山の強度も低下していたと考えられるため、急傾斜地での長期的な自立は困難であったと思われる。

また、地山部の花崗岩類も表層では亀裂系が発達し、以前からブロック化しやすい状態にあったと推察される。さらに、斜面中において木根が伸展していたこともあり、余計に割れ目の拡大を助長させていたものと想定される。したがって、今回の豪雨により亀裂間への地下水の浸透が多くなるにつれ、表層の剥落が生じたものと考えられる。岩片自体においても硬軟の差が大きく、軟質部ではハンマーが容易に突き刺さる程度の硬さしか有していない箇所もあった。

### ●斜面中の石積擁壁

対象斜面周辺では、空石積みが多用されているが、多くの地点で石積み自体の崩壊が生じている。これらの石積みは背面の地山の状態が悪いために、バランスを徐々に崩し、最終的に降雨などを引き金として崩壊に至ったものと考えられる。

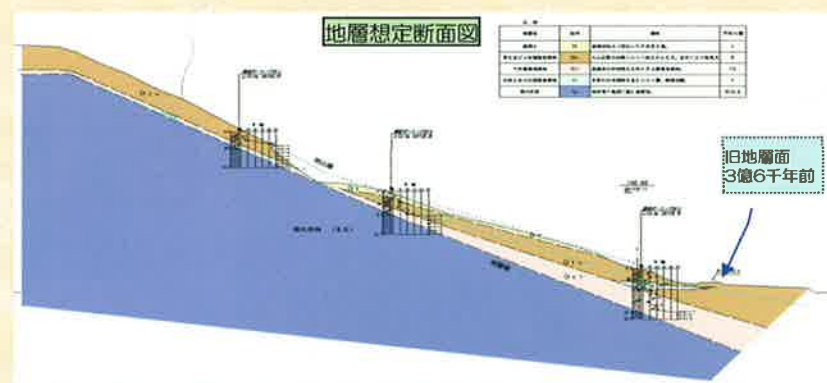
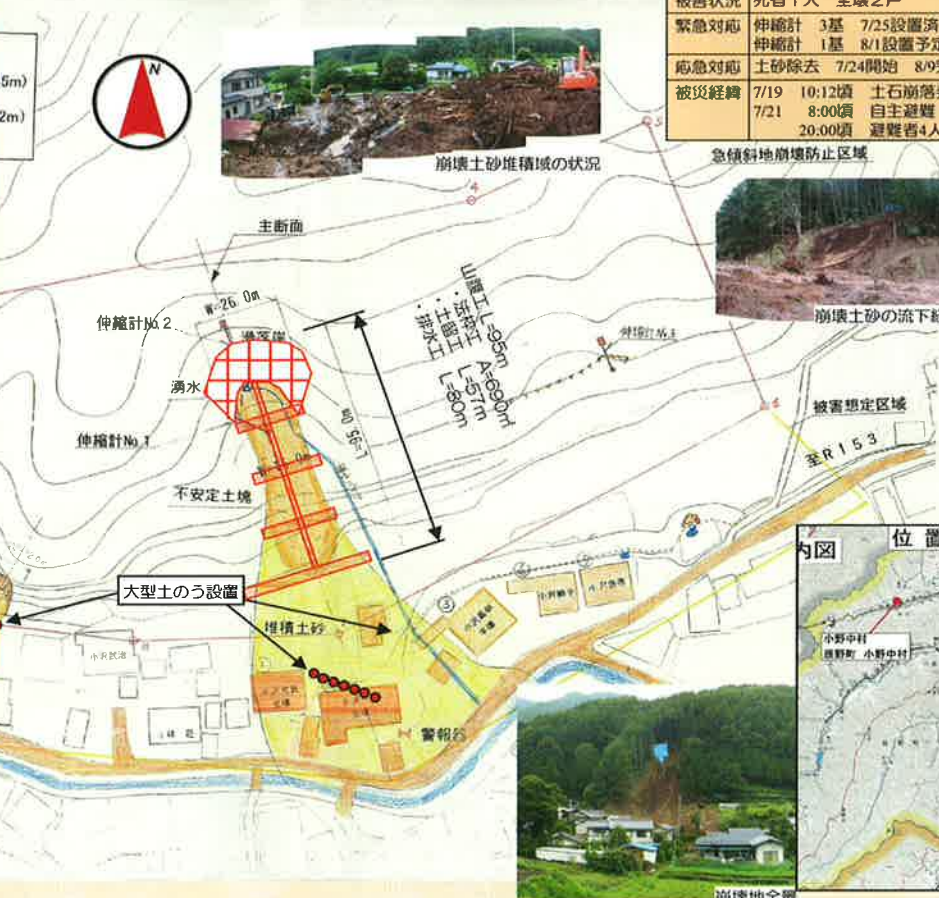


弾性波

# 【急傾斜】辰野町 小野中村

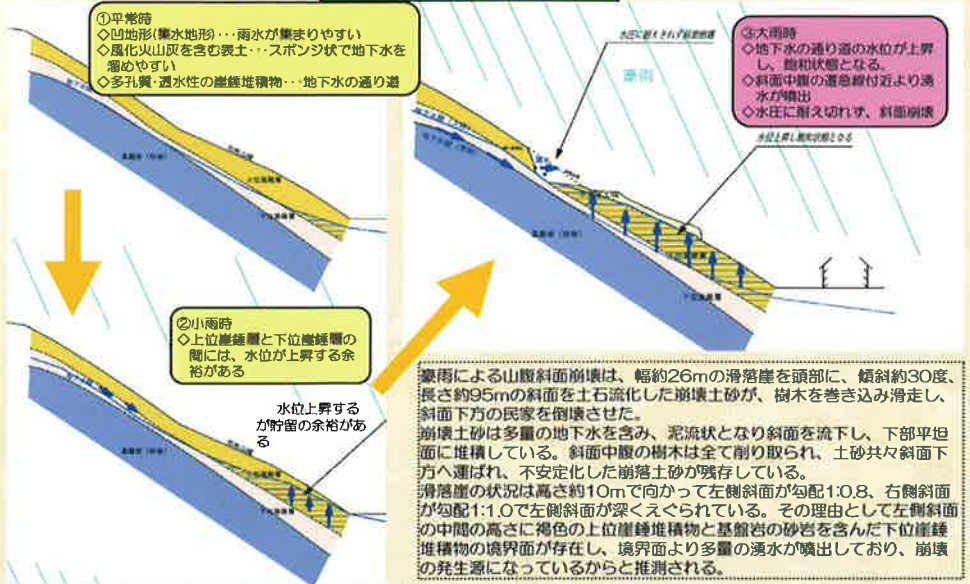


被害状況	死者1人 全壊2戸
緊急対応	伸縮計 3基 7/25設置済 伸縮計 1基 8/1設置予定
応急対応	土砂除去 7/24開始 8/9完了
被災経緯	7/19 10:12頃 土石崩落発生 7/21 8:00頃 自主避難 避難者4人 20:00頃 避難者4人 帰宅

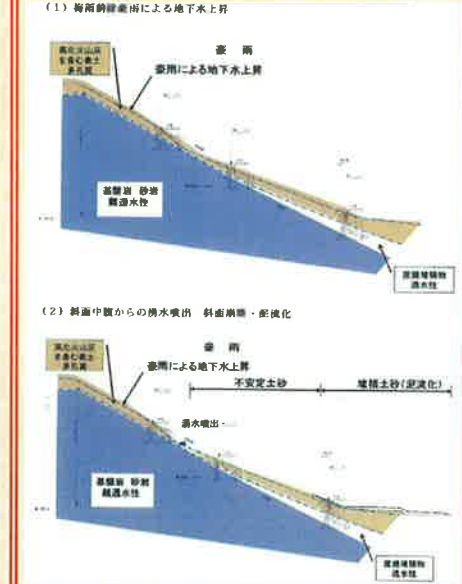


調査地周辺の地質は、中生代ジュラ紀奈良層の砂岩、粘板岩が基盤岩として広く分布している。奈良層の大きな特徴は細粒の碎屑岩相がよく発達していることである。細粒の碎屑岩相中には砂岩泥岩互層・泥岩・砂岩が見られるが、調査地の砂岩は細粒の砂岩からなる。中生代の古い硬い地層からできている。基盤岩の上位には中生代層に由来する礫を多量に含み、その礫の周りを取り囲む砂質およびローム質の粘土や泥からなる扇状地堆積物、飯沼川の氾濫原堆積物が覆っている。

## 崩壊発生経緯



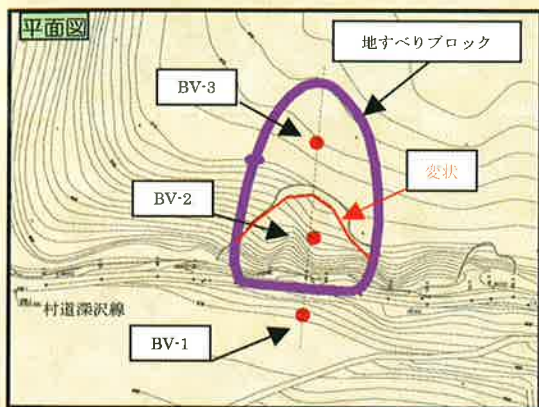
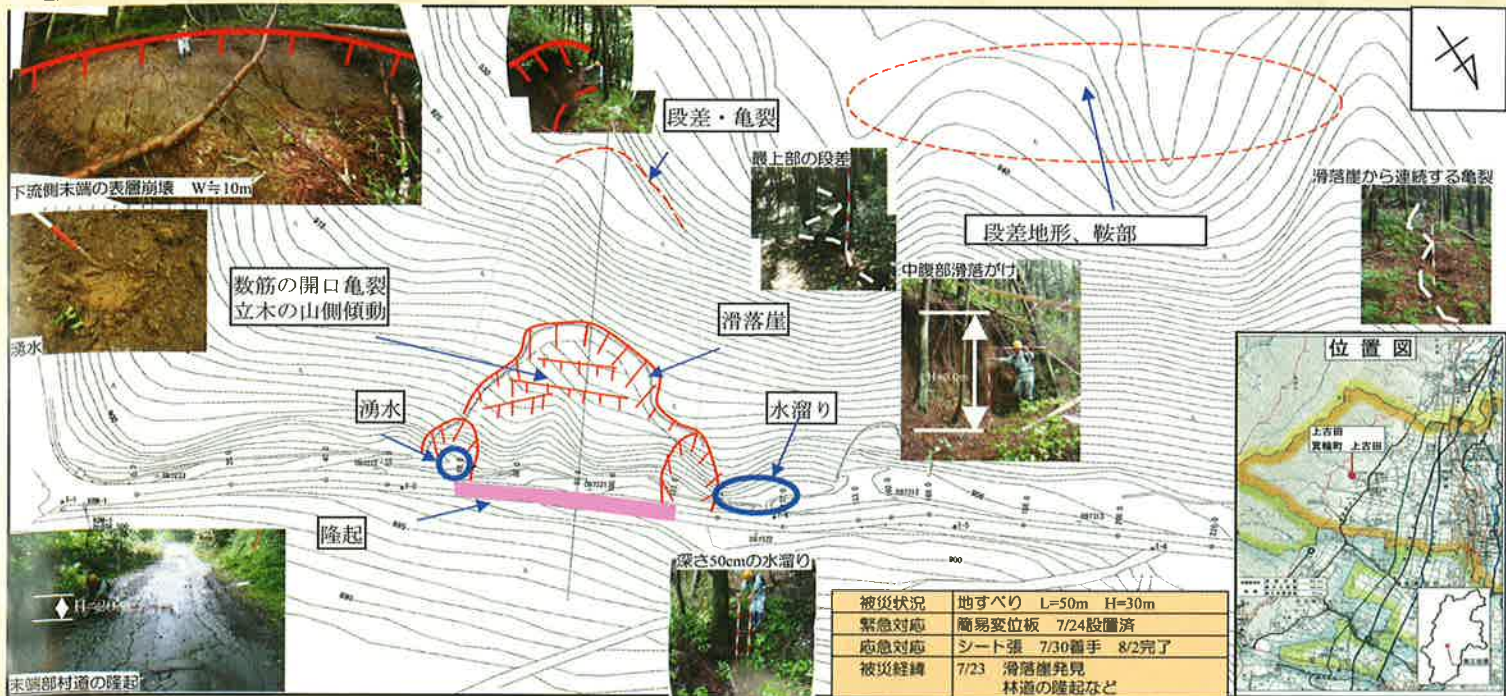
## 崩落発生機構



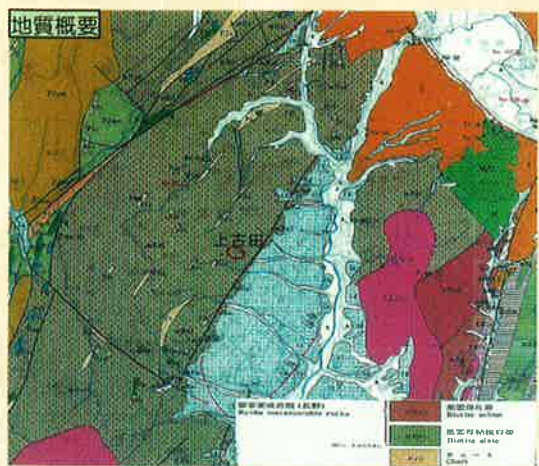
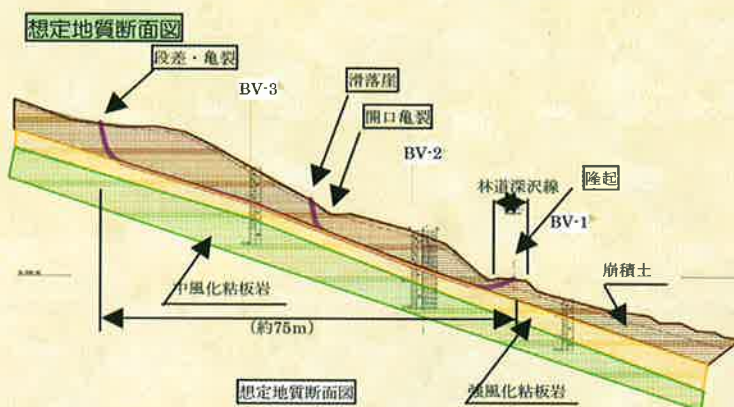




# 【地すべり】 上古田 箕輪町 上古田

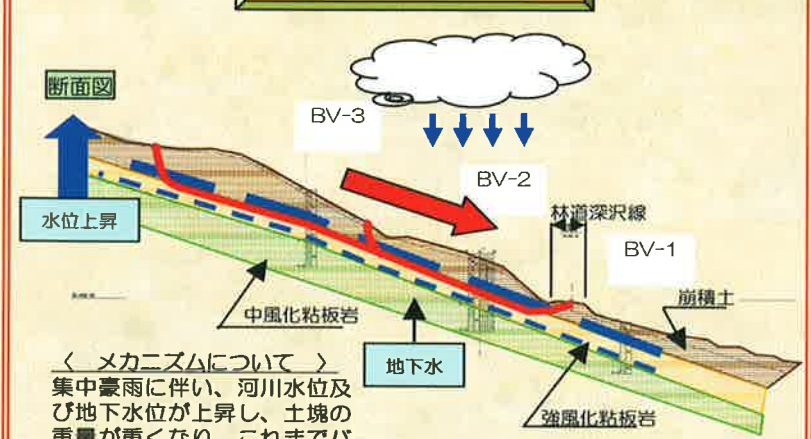


調査位置図



伊那周辺の地質は、天竜川の開折・堆積作用により天竜川両岸に新生代第四紀の沖積堆積物が分布している。また天竜川西側には、急峻な山体からの扇状地堆積物や開折作用による段丘堆積物が多く分布している。北部の諏訪湖周辺には安山岩溶岩が認められ、その南域では中生代領家変成岩類の黒雲母粘板岩が広く分布する。さらに南下すると領家帯花崗岩類へと漸次移行していく。当調査地周辺は諏訪湖南側にあたり基岩は、中生代領家変成岩類の黒雲母粘板岩である。黒雲母粘板岩は、泥質岩を源岩とする低変成度(低音高圧)の岩石で、肉眼では非変成の泥質岩とほとんどわからないが、黒雲母岩組織が形成されている。変成度が高くなると剥離面に白雲母が配列して光沢を持ち、細粒の黒雲母が肉眼でも認められている。

## 地すべりのメカニズム



〈メカニズムについて〉  
集中豪雨に伴い、河川水位及び地下水位が上昇し、土塊の重量が重くなり、これまでバランスを保ってきた土塊がバランスを失い、地すべりが発生した。

- 【素因】
- ① 沢地形であることから、地下水を集めやすい地形であり、恒常的に水位が高い。
  - ② 構成する土質が「礫混り粘性土」で、雨水や地下水の供給で流動しやすい。
  - ③ 長期にわたる河川の蛇行、下刻により斜面が緩んでいた。
- 【誘因】
- ◆ 近隣地域で月間雨量が平年の2倍を記録した大雨による間隙水圧の上昇。(中間部滑落崖の直上部や末端崩壊面に湧水が認められた。)

# 【砂防】 沢尻川右支川 辰野町 赤羽

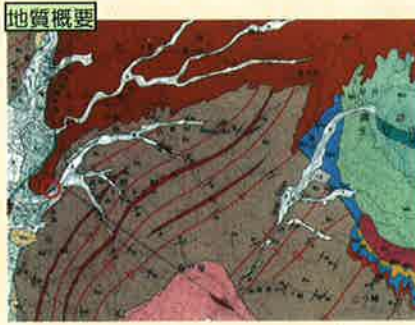
不安定土砂量	約1,500㎡
被災状況	全壊3戸 半壊4戸
緊急対応	伸縮計1基 7/24設置済
応急対応	土砂除去 7/25開始 8/8完了
被災経緯	7/19 9:00頃 土砂崩落発生 避難勧告(5人避難 3人救出→軽傷) 7/20 18:20頃 避難指示 (対象者:19世帯55人) 7/23 10:45頃 避難指示範囲縮小 (対象者:19世帯55人→10世帯33人) 7/26 13:00頃 避難指示→避難勧告 避難勧告範囲縮小 (対象者:10世帯33人→9世帯27人) 7/22 9:00頃 避難状況9世帯 (対象者:19世帯55人) 7/28 10:00頃 避難勧告解除



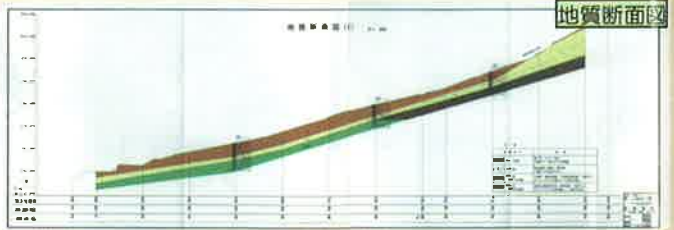
7月19日午前6時44分  
土石流発生

7月18日午後11時頃  
土砂崩落発生  
多量の湧水あり

7月19日午前4時頃  
住宅地側に増破



当地区の基盤を成すのは凝灰岩類(中生代ジュラ紀~白亜紀)に相当する泥岩砂岩起源の変成岩類(粘板岩等)である。本岩は被災斜面の谷の左岸出口付近や、VB-1孔で存在が確認されている。新幹線部では硬質緻密であるが、きわめて脆弱で、露頭では崩壊状に亀裂が発達し、ボーリングコアでは砕片状となる。凝灰岩類を覆って第四紀(更新世)の火砕岩類が分布している。本層は凝灰岩、凝灰角礫岩、安山岩等よりなり、滑降産の周辺やVB-3孔などで認められている。



## 崩壊発生特性

### 【素因】

1. 硬質な基盤岩(粘板岩主体の変成岩)を覆って、保水性のある凝灰角礫岩がキャップロック状に分布している。
2. この凝灰角礫岩は隙混じり土砂状をなし、全体に多孔質で、表流水(降水)は地下浸透しやすく、また地下浸透した水は斜面下方へ流下しやす。→崩壊の誘因となる地下水の供給源が斜面上部に存在する。
3. 凝灰角礫岩中には、風化した粘土質の凝灰岩層を挟んでおり、これが斜面上方から流下した水の遮水層となりやすい。
4. 谷頭部(崩壊箇所)の平面形は凹状をなし、表流水、地下水が集中しやすい。
5. 崩壊前には斜面中央付近に緩斜面が存在し(聞き取り調査による)、崩壊土が堆積していた可能性がある(頭部に崩壊の痕跡もあり)。→崩壊土を巻き込んで土石流が拡大した。
6. 崩壊前の斜面には根の浅い唐松がまばらに生育していた。→植生による崩壊の抑制効果が薄かった。

### 【誘因】

- 辰野町や伊那市では、総雨量が月平均の2倍となる400mmを超え、この間、時間雨量も10~20mmを超えたことが崩壊の誘因となった。また、聞き取り調査によると、崩壊直前にかつてないほどの多量のきれいな表流水が人家に流れ込んでいたことが目撃されており、斜面の保水能力を上回っていたことが考えられる。

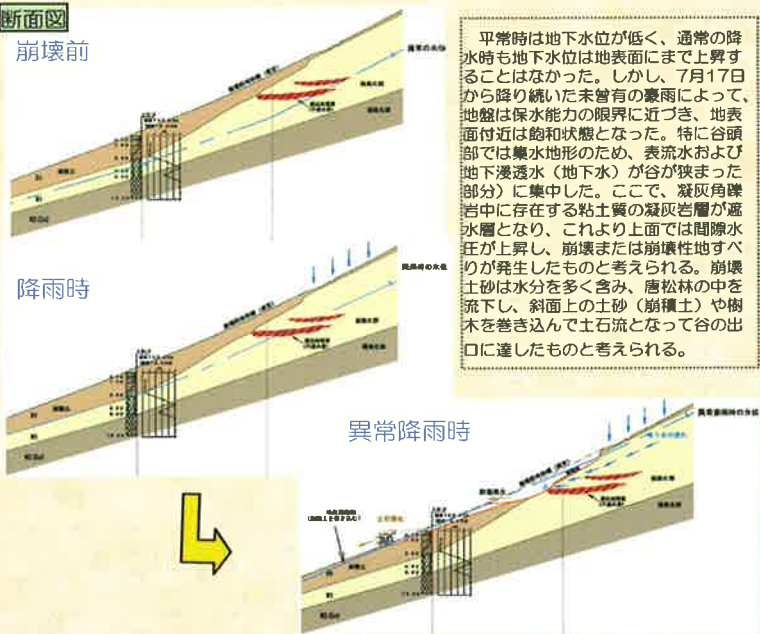


風化した凝灰岩と崩壊土の隙。凝灰岩は遮水層を形成する

植生がないところで5m四方に1~3本程度とまばらである

## 土石流のメカニズム

### 崩壊機構模式図



# 【砂防】前沢川 伊那市 西春近



## 土石流のメカニズム

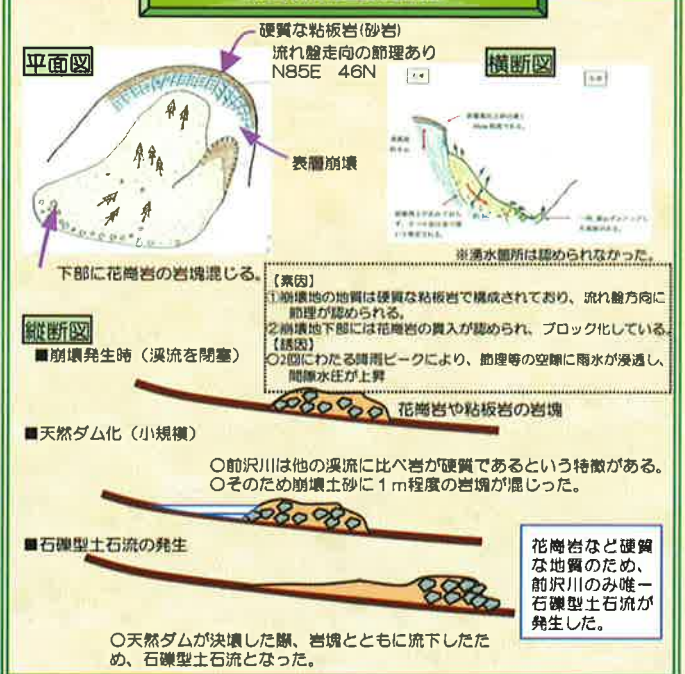


## 地質概要



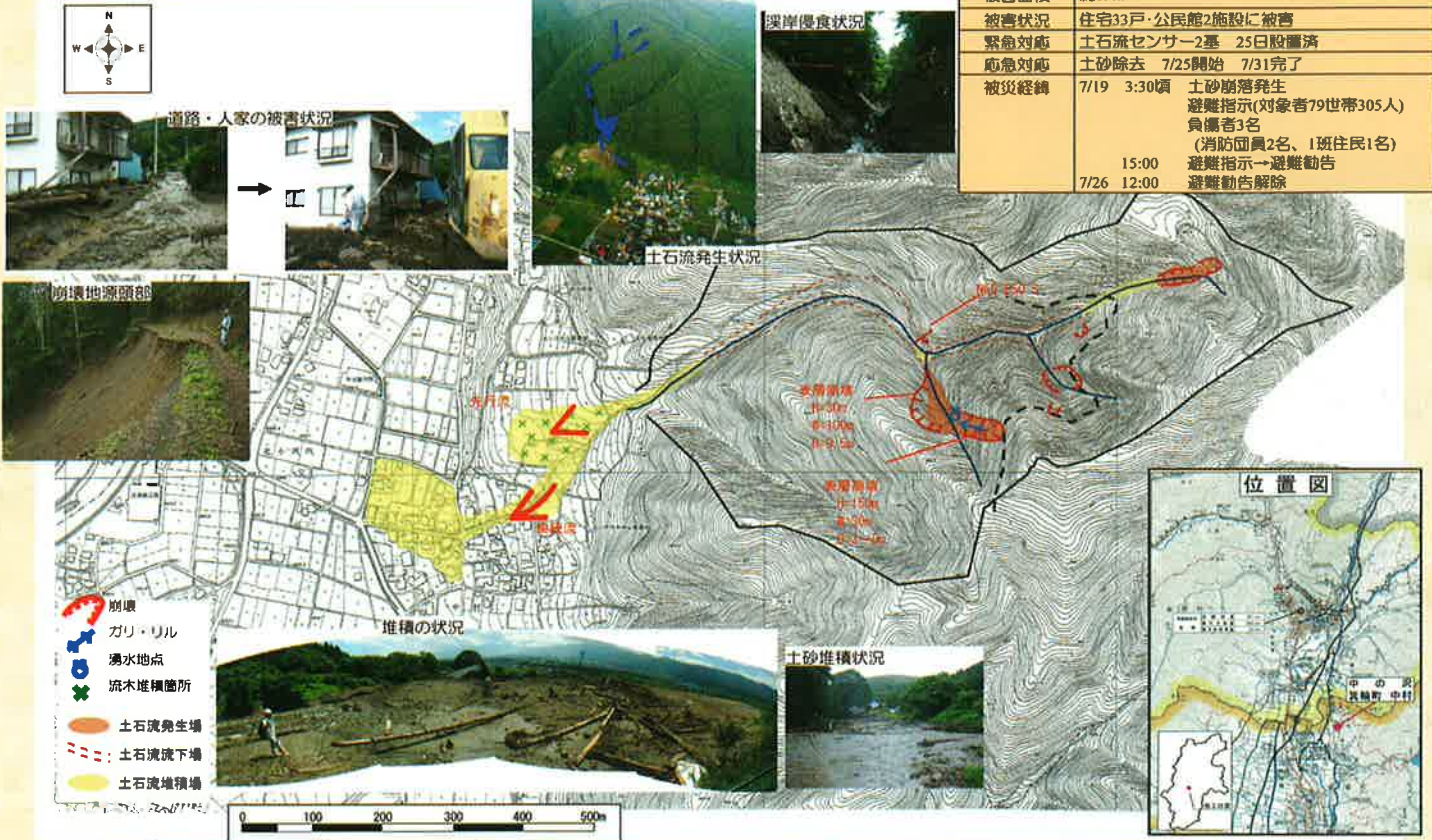
前沢川は、1160m~730mの東西方向の沢で、流域面積0.70km<sup>2</sup>、主流路長1.8km、平均河床勾配S=1/8の土石流危険渓流である。渓流は中流部で大きく2つに分かれ、本川は上流に向かって南西方向となる。流域の地質は精室変成岩類に属する粘板岩類と新規花崗岩類の太田の花崗岩が分布して、河床部には沢口より1,000m区間には粘板岩類の塊一塊流り土や花崗岩の塊が分布し、さらに上流400m区間は露岩として上部に粘板岩類、下部に花崗岩の貫入が認められる。また、山腹斜面の下位付近には崖壁堆積物に覆われている箇所が多い。下流~中流部にかけては土石流堆の上に林道が敷設されている。植生は谷筋に沿ってスギ、ヒノキの人工林が広がっている。

## 崩壊発生特性

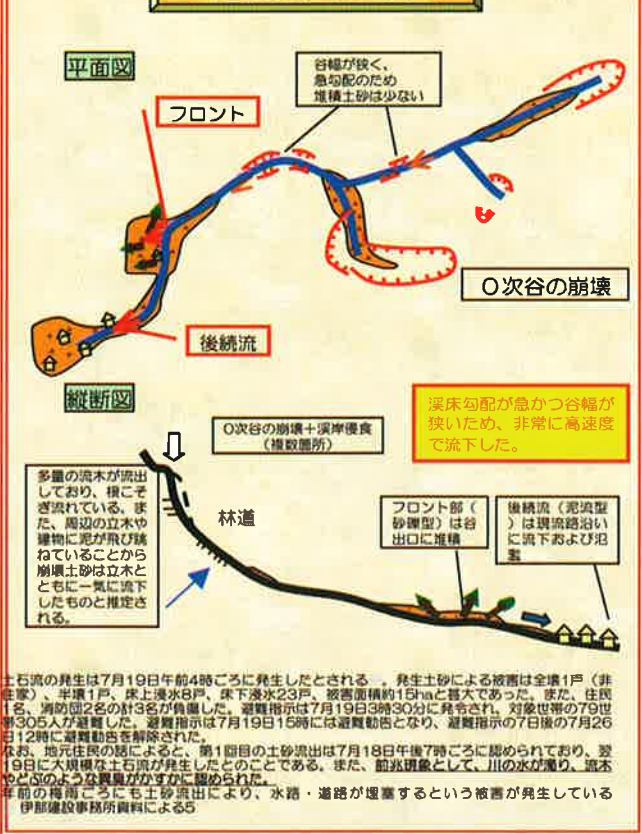


# 【砂防】中の沢 箕輪町 中村

流出土砂量	約30,000㎡
不安定土砂量	約4,000㎡
被害面積	約15ha
被害状況	住宅33戸・公民館2施設に被害
緊急対応	土石流センサー2基 25日設置済
応急対応	土砂除去 7/25開始 7/31完了
被災経緯	7/19 3:30頃 土石流発生 避難指示(対象者79世帯305人) 負傷者3名 (消防団員2名、1班住民1名) 15:00 避難指示→避難勧告 7/26 12:00 避難勧告解除



## 土石流のメカニズム



## 崩壊発生特性



崩壊発生地点は、O次谷の急勾配な沢地形を呈しており、集水しやすい環境であるため、風化層が厚く分布しているという特徴が認められる(原因①)。現地状況より崩壊深は約5mと推定される。また、湧水地点は風化層(表層土)と基盤との境界で認められ、崩壊残土が堆積しているところでは、基盤面まで流水によりガリ-が発達している。

崩壊は林道脇と中護の2ヶ所で発生したものと推定され、林道脇の崩壊土砂は直下に残存している状況である。

崩壊発生過程は源頭部の斜面で、7月17日からの先行降雨によって表土中の斜面が飽和状態となり、17日時点の降雨量ではまだ斜面が安定していたものが、19日の2度目のピーク雨量により斜面の安定性が損なわれたため、急勾配の沢地形上流域斜面で幅約25~40m、奥行き150m、厚さ3~5mの表層性の崩壊発生したことによるものと推定される(誘因)。

なお、崩壊源部には林道が敷設されており、露土部の路肩から崩れているのが確認されている。路肩部が弱く、さらに集水によってすべり面が形成されやすくなったことが崩壊原因のひとつに挙げられる(原因②)。



# “シンポジウム” 「平成18年7月豪雨と上伊那の土砂災害」 — 未来への提言 —

今回の土砂災害の悲惨さを後世に語り継ぐとともに、  
今後の土砂災害から私たちの命を守るための情報発信の場として  
このシンポジウムは開催される。

- 日時 平成19年2月7日(水)  
開場12:00  
開会13:00~17:00
- 会場 辰野町民会館



## ■プログラム

- 開会
- 基調講演  
「平成18年7月豪雨と土砂災害」  
北澤秋司 信州大学名誉教授
- 事例紹介  
「その時地域で」  
「土砂災害への新たな取り組み」
- パネルディスカッション  
テーマ:「不測の土砂災害にいかに備えるか」  
[パネリスト]  
小坂樫男 伊那市長  
矢ヶ崎克彦 辰野町長  
平澤豊満 箕輪町長  
原 義文 砂防課長  
松下泰見 伊那建設事務所長
- [コーディネーター]  
平松晋也 信州大学 教授
- 閉会



[主催]  
「シンポジウム～平成18年7月豪雨と上伊那の土砂災害～」実行委員会  
(伊那市/駒ヶ根市/辰野町/箕輪町/飯島町/南箕輪村/中川村/宮田村  
/長野県治水砂防協会上伊那支部/伊那建設事務所)

[共催]  
(社)日本地すべり学会中部支部/長野県砂防ボランティア協会南信支部

[協賛]  
上伊那地方事務所/伊那教育事務所

[後援]  
国土交通省天竜川上流河川事務所/(社)長野県建設業協会伊那支部  
/(社)長野県測量設計業協会南信支部/上伊那消防協会  
/(社)斜面防災対策技術協会中部長野支部/信濃毎日新聞社  
/朝日新聞社長野総局/中日新聞社/長野日報社/伊那毎日新聞社  
/たつの新聞社/みのお新聞社/南みのお新聞社/新建新聞社/週刊いな  
/伊那ケーブルテレビジョン(株)/エルシーブイ(株)/株エコーン(株)駒ヶ岳



**参加無料**

事前配布広告チラシ

# シンポジウム 『平成18年7月豪雨と上伊那の土砂災害』

## - 未来への提言 -



2007.2.7 (Wed)

会場 辰野町民会館

開場 12:00

開会 13:00~17:00

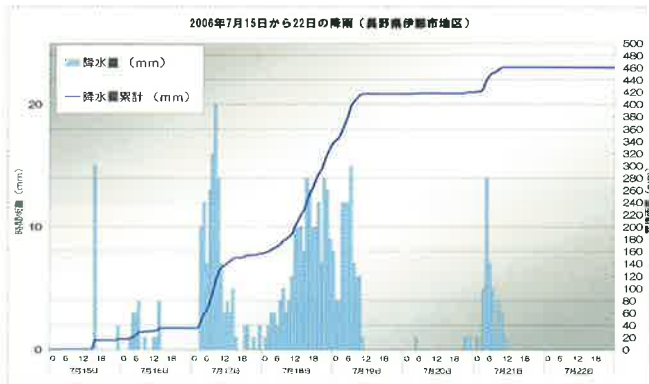
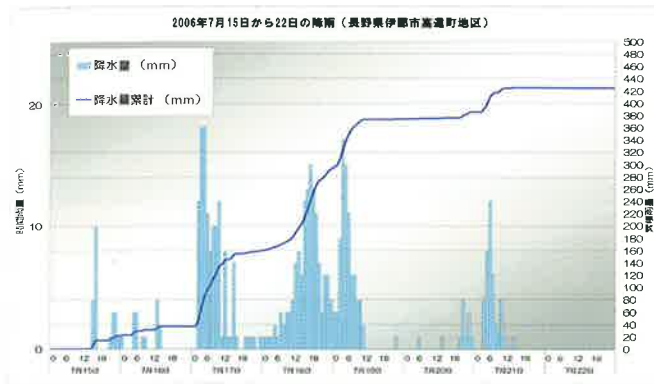
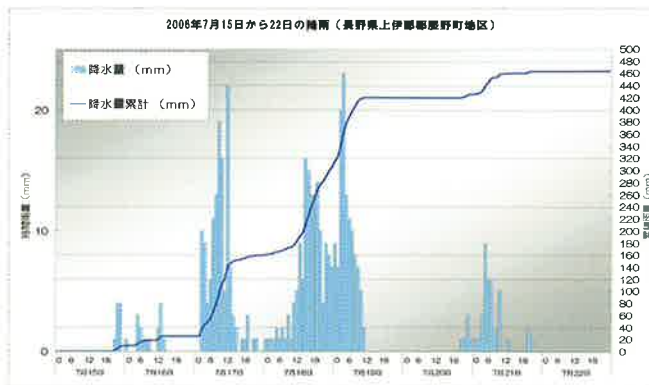
【主催】「シンポジウム～平成18年7月豪雨と上伊那の土砂災害～」実行委員会(伊那市／駒ヶ根市／辰野町／箕輪町  
／飯島町／南箕輪村／中川村／宮田村／長野県治水砂防協会上伊那支部／伊那建設事務所)

【共催】(社)日本地すべり学会中部支部／長野県砂防ボランティア協会南信支部

【協賛】上伊那地方事務所／伊那教育事務所

【後援】国土交通省天竜川上流河川事務所／伊那警察署／岡谷警察署／(社)長野県建設業協会伊那支部  
／(社)長野県測量設計業協会南信支部／上伊那消防協会／(社)斜面防災対策技術協会中部長野県支部  
／信濃毎日新聞社／朝日新聞社長野総局／中日新聞社／長野日報社／伊那毎日新聞社／たつの新聞社  
／みのわ新聞社／南みのわ新聞社／新建新聞社／週刊いな／伊那ケーブルテレビジョン(株)／エルシーブイ(株)  
／(株)エコシティー・駒ヶ岳

# 2006年7月15日から22日の降水量グラフ



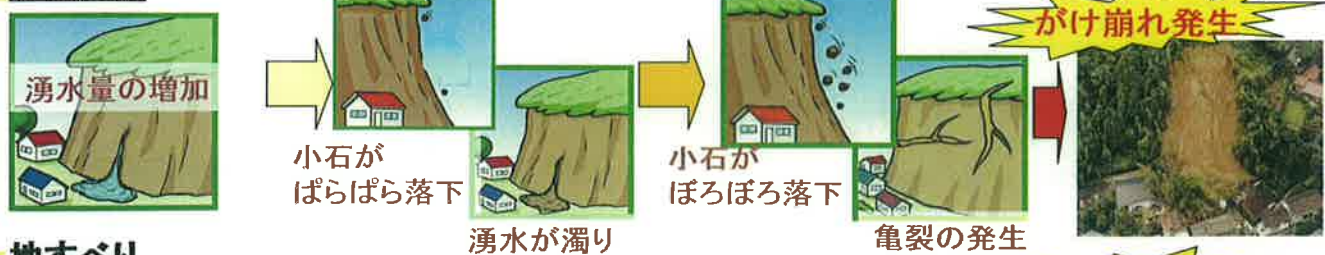
## 自助・共助に役立つ知識の普及 ～土砂災害の前兆現象～

### 時間的切迫性

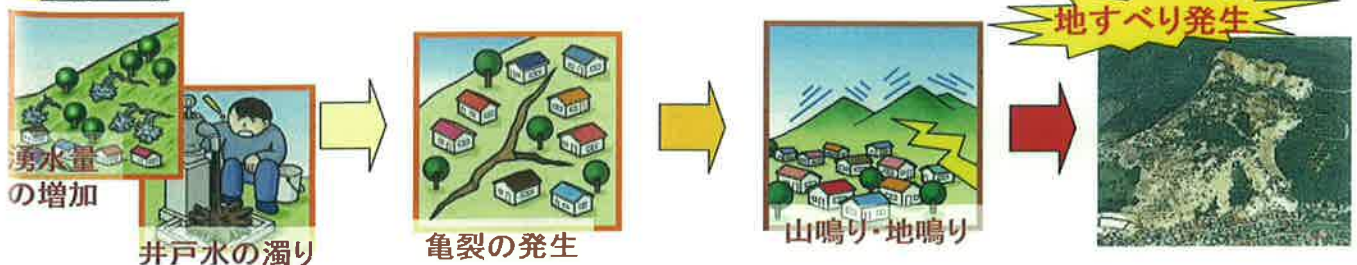
#### ★土石流



#### ★がけ崩れ



#### ★地すべり



# シンポジウム プログラム

12:00 開場

13:00 開会

開会挨拶...長野県治水砂防協会 上伊那支部長・南箕輪村長:唐木 一直

主催者挨拶...伊那市長:小坂 樫男

開催地首長挨拶...辰野町長:矢ヶ崎 克彦

来賓挨拶...国土交通省河川局砂防部砂防計画課長:中野 泰雄 / 全国治水砂防協会理事長:大久保 駿

13:30 基調講演

「平成18年7月豪雨と土砂災害」

講師:信州大学名誉教授:北澤 秋司

事例紹介

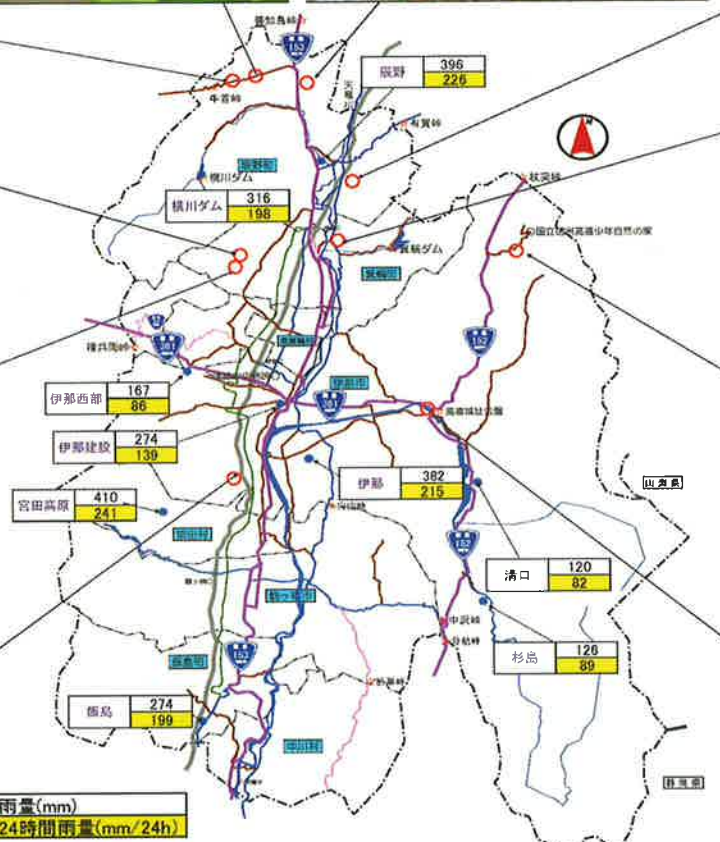
「その時地域で」...辰野町 赤羽:征矢 作太郎 / 箕輪町 北小河内区長:丸山 全二

/ 伊那市 高遠町 自治区長:伊東 義人 / 辰野町 消防署 予防係長:林 国久

/ 長野県 建設業協会 伊那支部:浅川 孝二 / 伊那警察署 警備課長:小林 定雄

「土砂災害に対する新たな取り組み」...飯島町長:高坂 宗昭

## 平成18年7月豪雨 災害関連緊急砂防事業箇所





15:00 休憩(10分間)

パネルディスカッション

「不測の土砂災害にいかに対応するか」

コーディネーター 信州大学教授:平松晋也

パネリスト

伊那市長:小坂樫男 / 辰野町長:矢ヶ崎克彦 / 箕輪町長:平沢豊満  
 / 長野県砂防課長:原 義文 / 伊那建設事務所長:松下泰見

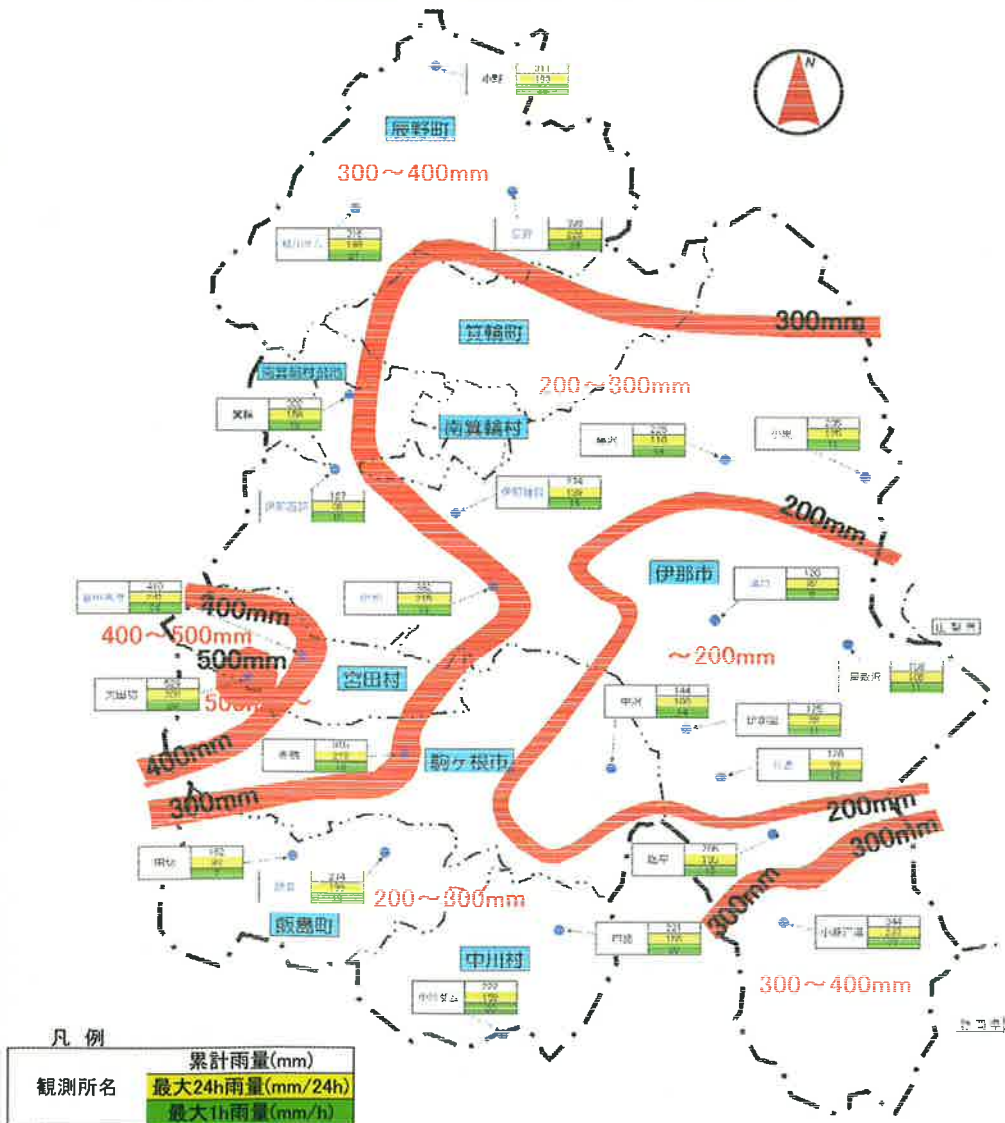
コメンテーター

国土交通省河川局砂防部砂防計画課長:中野泰雄

閉会

閉会挨拶...駒ヶ根市長:中原正純

平成18年7月豪雨 降雨状況【累計雨量図】



シンポジウム

# 「平成18年7月豪雨と上伊那の土砂災害」

— 未来への提言 —

今回の土砂災害の悲惨さを  
後世に語り継ぐとともに、  
今後の土砂災害から私たちの命を  
守るための情報発信の場として  
このシンポジウムは開催されます。

■日時 平成19年  
**2月7日(水)**  
開場12:00  
開会13:00~17:00

■会場 辰野町民会館

**参加無料**



## ■プログラム

- 開会
- 基調講演  
「平成18年7月豪雨と土砂災害」  
北澤秋司 信州大学名誉教授
- 事例紹介  
「その時地域で」  
「土砂災害への新たな取り組み」
- パネルディスカッション  
テーマ:「不測の土砂災害にいかに対応するか」  
[パネリスト]  
小坂禎男 伊那市長  
矢ヶ崎克彦 辰野町長  
平澤豊満 箕輪町長  
原 義文 砂防課長  
松下泰見 伊那建設事務所  
[コーディネーター]  
平松晋也 信州大学 教授
- 閉会



【主催】  
「シンポジウム～平成18年7月豪雨と上伊那の土砂災害～」実行委員会  
(伊那市/駒ヶ根市/辰野町/箕輪町/飯島町/南箕輪村/中川村/高田村/長野県治水砂防協会 上伊那支部/伊那建設事務所)

【共催】  
(社)日本地すべり学会中部支部/長野県砂防ボランティア協会南信支部

【協賛】  
上伊那地方事務所/伊那教育事務所

【後援】  
国土交通省天竜川上流河川事務所/伊那警察署/岡谷警察署  
/ (社)長野県建設業協会伊那支部/ (社)長野県建設士連合会南信支部/上伊那消防協会  
/ (社)斜面防災対策技術協会中部長野支部/信濃毎日新聞社  
/ 毎日新聞社長野総局/中日新聞社/長野日報社/伊那毎日新聞社  
/ たつの新聞社/みなの新聞社/南信の新聞社/新報新聞社/週刊いな  
/ 伊那ケーブルテレビジョン/エルシーブイ/エコーシティ/駒ヶ根

【問合せ先】  
伊那建設事務所 整備課 企画調査係  
・シンポジウム～平成18年7月豪雨と上伊那の土砂災害～実行委員会 事務局  
〒398-8666 伊那市伊那3497 TEL (0265) 76-6348 FAX (0265) 76-6550

# そのとき 災害現場では

In the disaster scene at that time



小野中村



小野中村



飲み川



下雨沢



下雨沢



対策会議



赤羽



赤羽



中の沢



中の沢



中の沢



中の沢



上古田



たきの沢



たきの沢



曲がり尾沢



上古田



曲がり尾沢



前沢川



前沢川 (中央道)



前沢川 (中央道)



前沢川 (中央道)



前沢川



前沢川



松倉上



松倉上



小横川



小横川



小横川



諸町



徳本水



雨沢川



中の沢



中の沢



小野中村



小野中村



飲み川





自衛隊



避難所



住民説明会 (北澤先生)



道路渋滞



消防



自衛隊



地区作業



住宅の消毒



ボランティア (飯沼沢)



ボランティア (中村)



ボランティア (赤羽)



避難所

# シンポジウム写真の様子

Scene of symposium



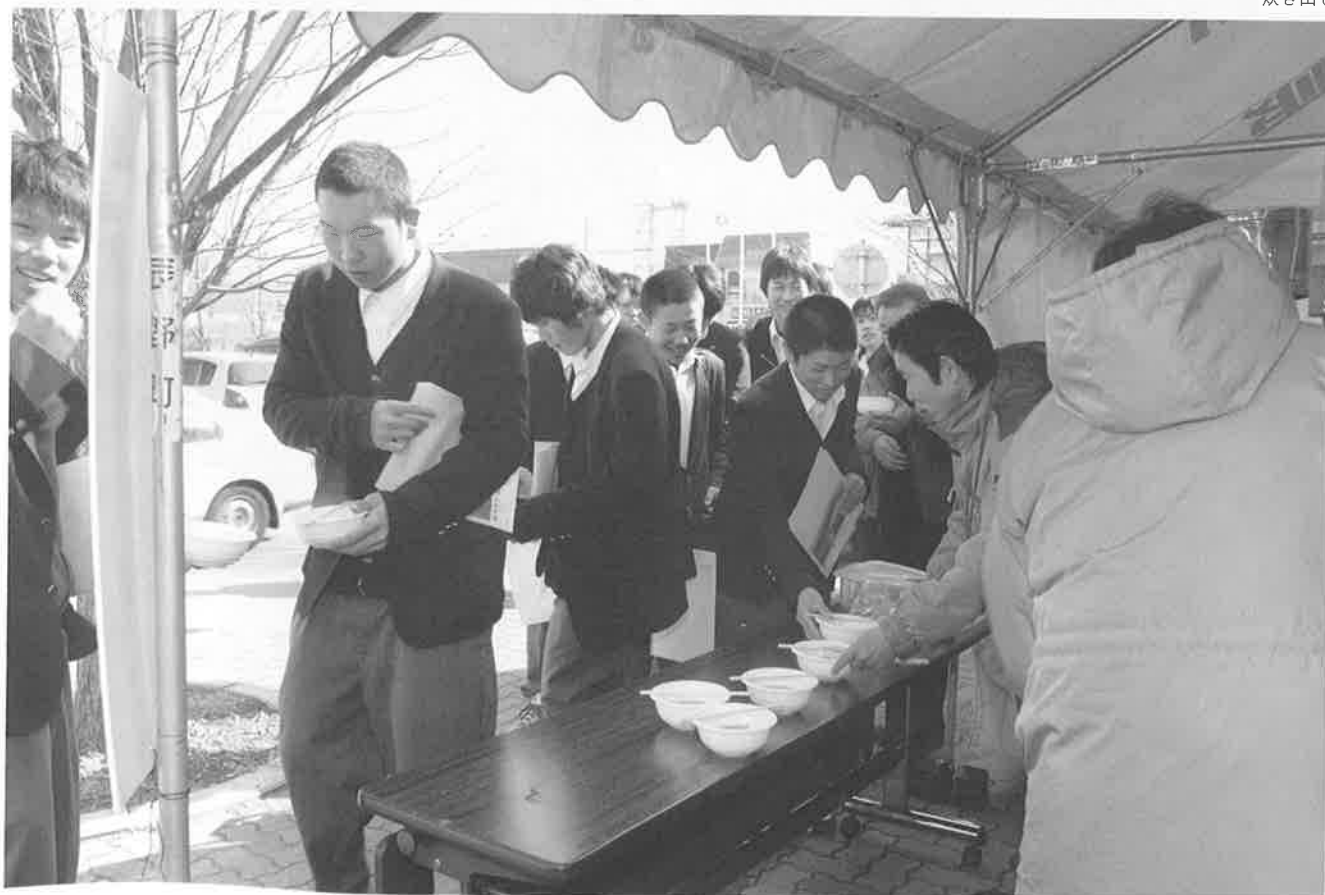
来場者



炊き出し



炊き出し



炊き出し



受付



受付



受付



来場者の状況



開催前



開会



北澤先生



ポスター会場



平松先生



パネルディスカッション



来場者のパネル見学



来場者のパネル見学



来場者のパネル見学



来場者のパネル見学



来場者のパネル見学



来場者のパネル見学



(社)地すべり学会中部支部



砂防ボランティア協会の展示



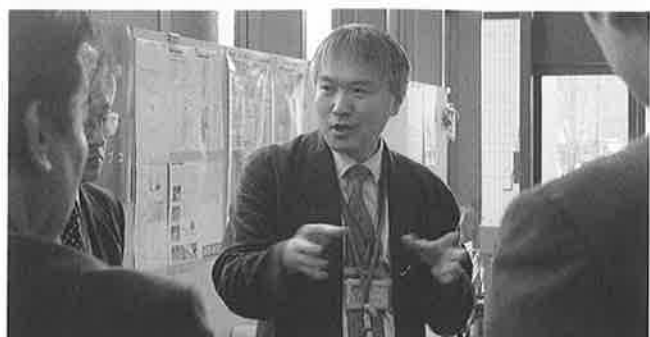
(社)地すべり学会中部支部による説明



(社)地すべり学会中部支部による説明



(社)地すべり学会中部支部スタッフミーティング



(社)地すべり学会中部支部による説明

# 上伊那土砂災害シンポジウム実行委員会名簿

Member list

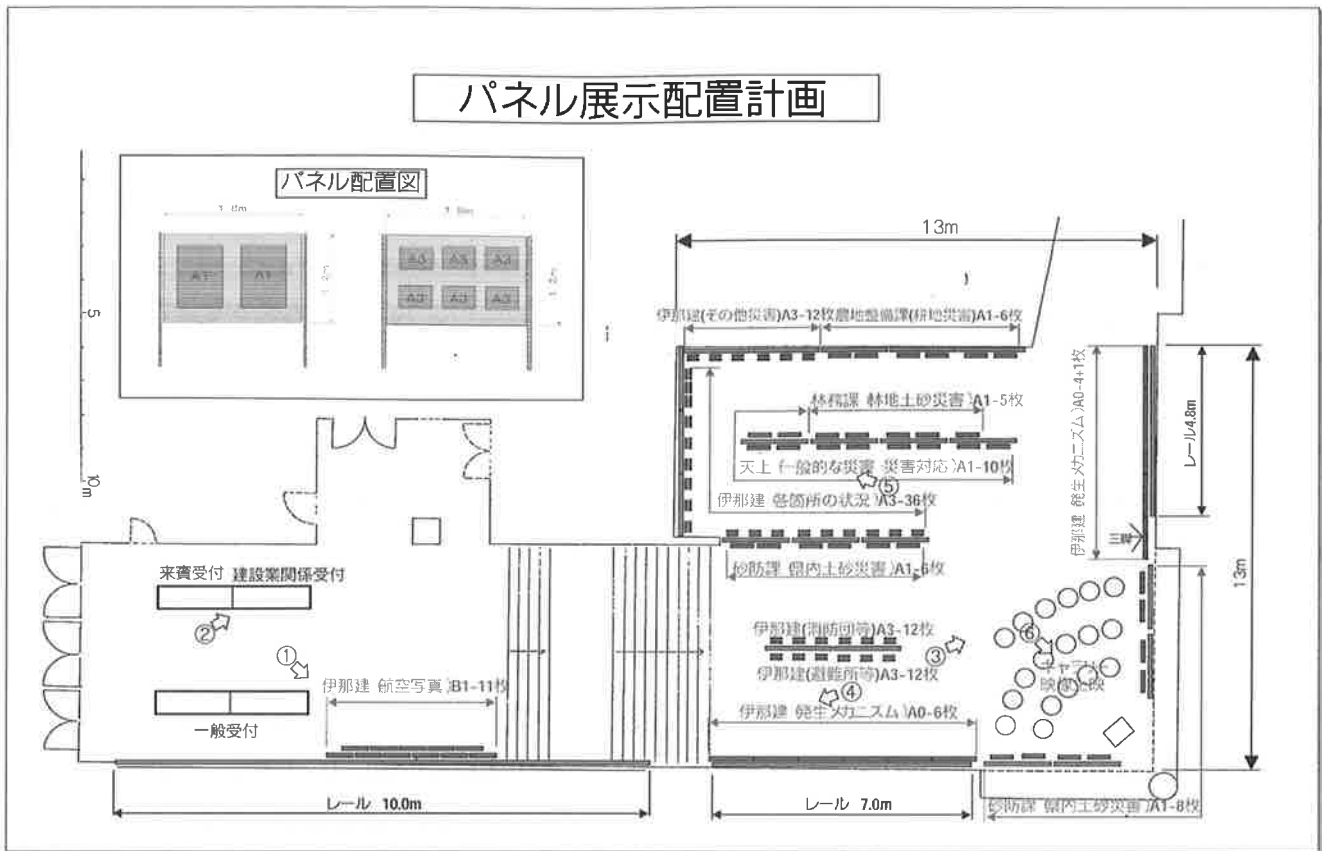
平成19年2月7日

担 当	氏 名	機 関 名
総 括	佐藤 知章	伊那建設事務所
	田代 幸雄	伊那建設事務所
受 付	責任者 宍戸 誠	伊那建設事務所
	中沢 豊春(建設業関係)	伊那建設事務所
	宮原 修二	辰野町
	北村 章	中川村
	吉川 裕之	中川村
	三沢 祐治	宮田村
	伊藤 哲也	富田村
	宮原 正尚	辰野町
駐 車 場 係	責任者 小野 耕一	辰野町
	両角 哲也	辰野町
	一ノ瀬和博	辰野町
	武井 高信	辰野町
	中畑 充夫	辰野町
	大槻 恵子	箕輪町
	小沢 雄一	箕輪町
	太田 好宏	箕輪町
	藤田 貞文	南箕輪村
	小林 勝	南箕輪村
	尾坂 壽夫	砂防ボランティア
	木下 登	砂防ボランティア
	北澤 正孝	砂防ボランティア
	水野 泰秀	砂防ボランティア
	パネル展示	責任者 飯沼 達夫
太田 雅行		伊那建設事務所
山本 慎一		長野県土・郷づくりチーム
百瀬 直孝		長野県森林づくりチーム
梅崎 健夫		信州大学工学部
内藤 哲		日本地すべり学会中部支部
小野 和行		日本地すべり学会中部支部
土屋 好幸		日本地すべり学会中部支部
島田千亜紀		日本地すべり学会中部支部
宮澤 洋介		日本地すべり学会中部支部
曾木 芳史	日本地すべり学会中部支部	
映 像 係	責任者 山口 有理	伊那建設事務所
炊 き 出 し	責任者 中村 良治	辰野町
	瀬戸 八州	辰野町
	福澤 恒幸	伊那市
	米山 秀樹	伊那市
	西村 健	伊那市
会 場 係	責任者 玉川 博之	伊那建設事務所
	宮澤 仁	伊那建設事務所
	中村宗一郎	駒ヶ根市
	渋谷 昭二	駒ヶ根市
	塩澤 俊昭	駒ヶ根市
接 待 係 (意見交換会)	責任者 後藤 勉	飯島町
	片桐 雅之	飯島町
	林 恵美子	飯島町
	馬場 恭平	伊那建設事務所
	宮澤 健一	伊那建設事務所
	松本 和民	伊那建設事務所
	丸山 さつき	伊那建設事務所
	平澤 泉	伊那建設事務所
	小出あや子	伊那建設事務所
	原 照代	辰野町
	中村 京子	辰野町
上島 淑恵	辰野町	
記 録 係	責任者 向山 秀樹	伊那建設事務所
	柳瀬 勝弘	砂防課
	大澤 和幸	砂防課
意 見 交 換 会 司 会	責任者 城下 賢美	伊那建設事務所
	柳沢 由里	伊那建設事務所



# 配置図

Hall Map.



主会場



パネル展示会場



エントランス



パネル展示ゾーン

## 編集後記 Editor's note

本誌は、2月7日に開催しました「シンポジウム 平成18年7月豪雨 上伊那の土砂災害 『未来への提言』」の記録を中心にまとめられたものです。また、このシンポジウムの中で伝えきれなかった部分、資料として残したいものがありましたので加筆・編集しております。

このシンポジウムの企画立ち上げ当初は、各地区で災害復旧対応が始まったばかりで、市町村、伊那建設事務所等も決して余裕があったわけではありませんでした。しかし、平成18年7月の豪雨は、上伊那地域に観測史上最大の累計400～500ミリの降雨をもたらし、死者4名を含む予想以上の甚大な被害が発生したものです。

特に多くの被害を出しました土砂災害に対して、地域、市町村、県、国がどのように取り組んだかを皆さんの記憶が多く残るこの時期に省みて、明日への教訓にしたいという趣旨のもと、このシンポジウムを開催しました。これとともに、このシンポジウムの記録や資料を紙面で残すことも当初から企画しておりました。今回まとめましたこの記録誌が1つの教訓となり、今後の減災対策への1歩となればと願っています。

最後に、本誌編集にあたり御寄稿いただきました北澤秋司信州大学名誉教授をはじめとする皆様、編集作業に御協力いただきました皆様、また、資料提供をいただきました皆様に謝意を表し、編集のあとがきといたします。

平成19年 3月

「シンポジウム 平成18年7月豪雨  
上伊那の土砂災害 『未来への提言』」

実行委員会記録誌編集チーム

整備課長 佐藤 知章

計画調査係長 田代 幸雄

技術専門員 穴戸 誠

計画調査係主査 大島 則雄

計画調査係技師 太田 雅行

計画調査係主査 玉川 博之\*

日本地すべり学会中部支部 飯沼 達夫\*

(\*編集幹事)

発行：「シンポジウム～平成18年7月豪雨と上伊那の土砂災害～」 実行委員会

電話 0265-76-6848(編集担当事務局：長野県伊那建設事務所計画調査係)

本誌の記事・写真・図表の無断転載は堅く禁じます。





希望あふれる未来のために



【主 催】

「シンポジウム～平成18年7月豪雨と上伊那の土砂災害～」実行委員会

伊那市／駒ヶ根市／辰野町／箕輪町／飯島町／南箕輪村／中川村／宮田村／長野県治水砂防協会上伊那支部／伊那建設事務所

【共 催】

(社)日本地すべり学会中部支部／長野県砂防ボランティア協会南信支部

【協 賛】

上伊那地方事務所／伊那教育事務所

【後 援】

国土交通省天竜川上流河川事務所／伊那警察署／岡谷警察署／(社)長野県建設業協会伊那支部

(社)長野県測量設計業協会南信支部／上伊那消防協会／(社)斜面防災対策技術協会中部長野県支部

信濃毎日新聞社／朝日新聞社長野総局／中日新聞社／長野日報社／伊那毎日新聞社／たつの新聞社／みのわ新聞社  
南みのわ新聞社／新建新聞社／週刊いな／伊那ケーブルテレビジョン(株)／エルシーブイ(株)／(株)エコシティー・駒ヶ岳